# 名前を知る

初夏、新緑の河畔林

## キハダ ー 皮の内側が黄色いから「黄肌」

この冊子は、木の名前を覚えようという考えでは作られていません。個々の木の名前をわかるようになろうとも考えていません。
それより、いろいろな見方をわかることで、少しでも木を身近に感じてもらおうとしています。

しかし、名前がつまらないわけではありません。名前にはその木に対する人の思いが込められています。その木の特徴が表されています。
名前の持つ思いがけない意味を知ると、また少し、木を身近に感じられるはないでしょうか。

| 木の名前 | 名前の意味 | アイヌ語名 |
|---|---|---|
| オノエヤナギ | 「オノエ」は「峰の上（おのえ）」で、四国や本州では高い山に生えることからつけられた。<br>「ヤナギ」は<br>①古く中国で矢を作ったことから矢の木とよばれ、それが変化した<br>②生長しやすいことから「彌長（イヤナガ）」と呼ばれ、そこから<br>③魚を捕るための梁（やな）を作ったことから「梁木（やなぎ）」と呼ばれた<br>④枝が柔らかくしなることから「柔萎木（やわなぎ）」と呼ばれそこから<br>などの説がある。 | スス。<br>秋、黄ばんだオノエヤナギの葉がぽろぽろ川に散り尽くす頃、シシャモが群れをなして遡上する。<br>シシャモのことをアイヌ語で「ススハム」といい、「シシャモ」の語源だという。 |
| ヤチダモ | 「ヤチ」は「谷地」または「野地」と書き、湿地を表す。<br>「タモ」は<br>①「霊＝タマ」で樹霊信仰から<br>②トネリコの仲間は材ががねばり強くて「撓む（たわむ、たむ）木」であることから<br>という説がある。 | ピンニ |
| カシワ | 古代、飯を炊（かし）ぎ盛るのに多く用いられたので、「カシキ・ハ」と呼ばれたことから。<br>また、「カシワ」は食べ物を盛る器に使われる木の総称でもある。 | コムニ（ドングリの粒のなる木） |
| ハルニレ | 「春に花をつけるニレ」という意味。<br>「ニレ」は、皮をはがすとヌルヌルするので「滑れ（ぬれ）」と呼んだことからだという。 | チキサニ（我ら・こする・木＝火を起こす木） |


**参考文献**

「アイヌ植物誌」福岡イト子　草風館　1995
「図説花と樹の大事典」木村陽二郎 監修　植物文化研究会・雅麗 編集　柏書房　1996
「北の生活文庫 第２巻 北海道の自然と暮らし」関秀志・矢島睿・古原敏弘・出利葉浩司　北海道新聞社　1997
「北海道　樹木図鑑」佐藤孝夫　亜璃西社　1990
「森林で遊ぼうシリーズ１おもしろい木の話」北海道立林業試験場　北海道林業改良普及会　1996
「改訂増補 牧野新日本植物圖鑑」牧野富太郎 著　小野幹夫・大場秀章・西田誠 編集　北隆館　1989